
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時45分）

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領良く行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受けて質疑を続けてください。

質疑は一括質疑と一問一答方式どちらかを述べてから質疑に入っていただきたいと思います。

それから、固有名詞等は発言に十分注意して行ってもらいたいと思います。

なお、定例会におきまして、町長に反問権を付与しております。できるだけ議論を深めていっていただきたいと思います。

最後に、傍聴者の皆さんに申し上げます。議場内ではお静かにお願いいたします。

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君） 日程第5、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 藤 井 要 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位1番、藤井要君。

（5番 藤井 要君 登壇）

○5番（藤井 要君） それでは、通告に従いまして壇上より一般質問を行います。

暑い夏も終わり、いよいよ松崎町議会の季節がやってまいりました。国会では集团的自衛権や東京五輪の新国立競技場建設費について連日議論がされています。

わが松崎町でも津波防災対策まちづくり、地方創生まちづくり、来年開催の美しい村フェスティバルなど今後の松崎の未来に向けたビジョンが高まっていくことを大いに期待するものであります。

今議会は平成26年度決算審議をはじめ、重要な議案が審議されますので、当局に負けずにしっかりとした質疑を行い、町民の期待に応えられるよう頑張りたいと思います。

先ほど当局より当町の観光施設への入込状況報告がありましたが、改善がみられるものの依然として厳しい状況が続いていると思います。

また、町長が進める観光の中心に農林業を据える政策も鳥獣被害、高齢化による農業離れなど大きな問題が山積しています。

また、地方創生では、来年3月末までに自治体は地方版のビジョンや戦略を策定することは要請されていますので、このような問題、課題をいかに進めていくのか、お伺いいたします。

最初の質問は、牛原山整備計画と地方創生についてであります。牛原山には遊具がありましたが、長年の使用により損傷等もあり危険であるとのことで、昨年一部の遊具は撤去されました。今後の設置については、27年度に協議するとの方針でありましたが、27年5月に株式会社スタジオエルとの間で請負金額199万8000円の随意契約が結ばれました。町はどのような計画理念のもとに牛原山整備計画（基本計画）策定業務委託を依頼したのか。職員等が議論し意見が反映された計画策定依頼なのか、お聞かせ願います。

次に、移住・交流による地域活性化支援事業業務委託が請負金額100万円で随契によって結ばれました。この事業に対しても職員等による議論がされたのち、委託されたのか。委託の内容をお聞かせください。

次に、文化・観光対策についてお聞きします。私は、平成26年6月議会で「松崎町は、わびさびを感じる癒しの町であるが、常盤橋はカビだらけ、浜丁橋はサビだらけ、時計台は穴だらけである。このまま放置するのか」と質問しています。

町長は『「日本で最も美しい村」連合に加盟したこともあり、施設の管理に積極的に取り組んでいく』と答弁しております。時計台は修繕されましたが、来年10月には当町で美しい村フェスティバルが開催され、松崎を売り込む絶好の機会に常盤橋、浜丁橋はカビだらけサビだらけの状態のままにして観光客や関係者をお迎えするのですか。修繕する気はあるのか。なまこ壁の保全等も合わせてお聞きします。

次の質問に入ります。町長は5月に台湾、6月にベトナムに視察に行っておられます。東南アジア方面から今後の伊豆観光にいかせる誘客対策について見識を高めるためであると考えますが、この視察をどのように松崎の観光にいかすのか。関係職員等にどのような指示を与えたのか、お聞かせください。

次に、くらし・環境について質問します。町長は、基幹産業である観光業の中心に農林業

を据えて取り組み、町を活性化させたいとおっしゃっています。しかしながら、農林業に対する具体的な対策は未だに見えていないと感じています。

6月22日のことでありますが、中川地区の吉田区内の田んぼに前夜シカが出没し、稲を食べられた。シカ除け網を張り巡らせなければならないが、今後もこのようなことが起こるようならば、精神的にも経済的にも農業をやっていただけないとの声を多くの方からお聞きしました。このままでは、町長のおっしゃる観光業の中心に農林業を据えた取り組みが崩れ去る危機に瀕していると感じますが、いかがでしょうか。

そこで、シカ、イノシシの捕獲に向けた町長お得意な壮大な取り組みが必要と考えますが、町の取り組みをお聞かせください。

次に、伊豆の長八生誕200年記念松崎町プレミアム商品券についてであります。プレミアム商品券は7月15日より7カ所で9時より販売されましたが、町外者の購入もできたため、町内者が早朝より並んでも購入できない人がいたと伺っております。そのようななかから、事前予約や購入セットの制限を少なくし、多くの町民に利用いただくような対策を取った町もあるのに、おかしい町だとの声も聞こえてまいりました。町でもそのような声をお聞きになったのではないかと思います。販売方法に問題がなかったのか、当局の見解をお尋ねいたします。

これにて壇上からの一般質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 藤井要議員の一般質問にお答えします。

1. 牛原山整備計画と地方創生について。①「松崎町牛原山整備計画(基本計画)策定業務委託が随意契約によって締結されているが町の計画理念はなにか」についてです。

牛原山町民の森につきましては、昭和58年度に第1次整備事業が完了し、展望台・アスレチック・森のボブスレー・遊歩道・公衆トイレなどが整備され、町民の憩いの空間として整備されました。

しかしながら、整備後30年が経過し、施設の老朽化や公園に対するニーズの変化により、利用者の減少も見られることから、牛原山町民の森の再整備が課題となっております。

このため、平成26年度に牛原山町民の森整備計画策定業務委託料として250万円を予算措置し、地域ブランディングやパークマネジメント、島根県海士町の総合振興計画などで実績のある大阪府吹田市の株式会社スタジオエルに、町の現状把握や統計数値のまとめ、ヒア

リング調査などの業務を平成26年度において委託し、整備計画策定を町民と行政が連携して進めていくための職員のヒアリング技術やワークショップのファシリテーター（会議進行）技術の研修などを行う費用200万円は平成27年度に繰越措置をさせていただいたところでございます。

また、9月補正予算においてパークマネジメントのフォーラムやワークショップの予算を措置させていただいたところでございます。

牛原山町民の森の整備計画策定にあたっては、使う立場である町民が、実際に牛原山を使いながら計画策定に参画すること、再整備後に町民活動を視野に入れた計画であること（町民自身が主体的に森づくりに関わること）、外部の視点（場に訪れる立場）を取り入れた計画であることをポイントとして進めているところでございます。

②「移住・交流による地域活性化支援事業業務委託が随意契約により締結されているが、委託の具体的な内容は」についてです。

町では、平成14年度に「スケッチの町づくり」を宣言し、スケッチポイントマップや観光協会によるスケッチコンクールなどを実施しておりますが、来訪者にスケッチの町をアピールし、見どころを探すだけでもアート観賞が楽しめるような看板を検討するため、平成27年度で「移住・交流による地域活性化支援事業委託」として100万円を予算措置したところでございます。

今回、「日本で最も美しい村」連合の企業会員であり、前年度、移住促進用のパンフレット製作を委託した株式会社ANA総合研究所に業務を委託し、ワークショップや現地調査を実施しながら、高山尚道氏のコーディネートによる鳥瞰図を作成しているもので、今後は完成した鳥瞰図で案内看板やパンフレットを作成、活用し、松崎町での楽しい旅をイメージできるような取り組みを進めていくものでございます。

2. 文化・観光対策について。②「美しい村フェスティバル2016年10月松崎町で開催され、松崎町を売込む絶好の機会と捉えるが、「常盤橋」「浜丁橋」のカビだらけサビだらけのまま、お客様をおもてなしするのか」についてでございます。

6月26日から28日に北海道美瑛町で開催された「日本で最も美しい村」連合総会において2016年秋の臨時総会（フェスティバル）の開催地に当町が決定したことにつきましては、去る7月開催の議会全員協議会においてご説明をさせていただきましたとおりでございます。

フェスティバルでは、新規加盟を承認する臨時総会、基調講演、事例発表、交流会、町内

視察を予定し、加盟町村・地域、企業サポーターの皆様が訪れることになっております。町内視察では、美しい村の構成資産である「石部の棚田」をはじめ「なまこ壁の建造物」、桜葉漬けの工場などを予定しておりますが、それ以外の場所につきましても、ご覧いただくことで検討しております。

当然のことながら、これら資産だけでなく町全体が美しく、綺麗であることは、お客様をお迎えする上で重要なことであり、これまでも花いっぱい運動を通して住民、団体のご協力をいただき、美しく快適な環境づくりを進めてきたところでございます。

ご指摘の施設につきましては、議員には大変ご心配をおかけしているところでございますけれども、本年度予算で修繕を発注してございます。内容といたしましては、常磐大橋については欄干の漆喰絵図を化粧直しし、浜丁橋については腐食した欄干の補修、塗装を行います。また、これに限らず施設などを点検し、きれいな状態で、「日本で最も美しい村」連合の皆様をお迎えすべく対応してまいりたいと考えております。

なお、先ごろ地域おこし協力隊が中心となって「なまこ壁と鰻絵を未来へつなごうプロジェクト」として、町民ボランティアとともになまこ壁のクリーニングも実施されましたが、住民の皆様が町に対して自分たちとして何ができるかを示してくれたものであり、誠にうれしく感じております。

②「町長は5月に台湾、6月にベトナムと今後の伊豆観光にいかせる見識を高めてこられたと思うが、松崎の観光にどの様に結び付けていくのか」についてでございます。

5月21日から4日間の日程で実施した台湾へのトップセールスは、美しい伊豆創造センター加盟の6市6町の首長が「台北国際観光博覧会」に参加し、ステージイベントやブースにおいて伊豆半島をPRするとともに、台湾の交流協会や交通部観光局などを訪問して、情報交換を行い、より一層交流を深めていくことを確認いたしました。

また、7月1日から4日間の日程で実施した賀茂郡町長会の海外視察研修では、5町長が伊豆半島ジオパークの世界認定に向け、世界遺産の先進地事例を学ぶとともに、2020年の東京オリンピックにおける合宿誘致などの可能性を探るため、ベトナムのハノイを訪問し、世界遺産「ハロン湾」の視察や文化・スポーツ・観光省や海外労働省の幹部と意見交換いたしました。

現在、7市6町で構成する美しい伊豆創造センターでは、インバウンド事業を重点事業の一つと位置づけ、トップセールスやファムトリップ、海外プロモーションの実施、伊豆半島

内のインフォメーションの多言語化を進めています。また、伊豆道の駅ネットワーク協議会でも伊豆半島内の8つの道の駅が重点「道の駅」の認定を契機としてインバウンド観光を積極的に進めるため、外国人対応チラシ、スマホアプリによる情報発信や外国人対応のスキルアップ研修やマニュアル作成を行うことといたしております。

観光客が減少するなか、訪日外国人を誘客することは重要なこととであり、今回のトップセールスや視察研修をいかし、他の市町と連携しながらインバウンド事業を進めていきたいと考えております。

3. くらし・環境について。①「農林産物に被害を及ぼす、シカ・イノシシの捕獲に向けた壮大な取り組みが必要と考えるが、町の取り組みは」についてでございます。

ご質問のニホンジカやイノシシ、さらにはサル等の有害鳥獣がもたらす農林産物の被害は深刻であり、被害対策にはどの市町も苦慮している状況であります。この有害鳥獣被害に対する町の取り組みとしては、猟友会への捕獲報奨金等の助成による捕獲推進対策や、田や畑への侵入を防ぐ電気柵や防護柵の設置費用補助、さらには有害鳥獣捕獲人員の増加を図るための狩猟免許取得費用助成などを実施していますが、これらの様々な対策を講じて、有害鳥獣被害をなくすことは大変困難であります。これ以外にも、有害鳥獣のすみかにもなる里山周辺の耕作放棄地の解消や、山間部の生息環境の保全効果が期待できる森林整備などが考えられますが、いずれにしても有害鳥獣被害対策には特効薬がありません。町といたしましては、今後とも捕獲や防護を第一に様々な取り組みを継続して地道に進めていく考えであります。

②「松崎町プレミアム商品券は、7月15日に販売され即完売の状況であったと聞くが、販売方法に問題はなかったのか」についてでございます。

国は地方の消費喚起や生活支援を目的として「消費喚起・生活支援型交付金事業」を創設し、都道府県・市町村に消費喚起効果の高いプレミアム付き商品券やふるさと名物商品券・旅行券を主として行うことを推奨してきました。

町では、事業創設を受け、3月議会定例会において商工会地域消費喚起事業として900万円、観光協会観光誘客事業として660万円の計1560万円を補正予算措置させていただいたところでございます。

ご質問の商工会のプレミアム商品券事業は、長八生誕200年記念にも併せて、1セット500円券24枚綴を4000セット用意し、商工会を含む6カ所で7月15日・16日の両日販売いたしました。

ものですが、両日とも販売開始から2時間程度で完売するという状況であったと伺っています。

商工会では、過去に実施したロマンシール協同組合での「プレミアム付き商品券事業」状況や今回4000セットという多くの販売量、先行して実施した市町村の状況も勘案しながら、事業を進めてきたわけですが、想像を超える売れ行きで、購入できなかった方も多くあったことから、今後商品券事業を実施する場合には、今回の状況をも踏まえて対応をしていただくようお願いしたところでございます。

以上でございます。

○5番（藤井 要君） 一問一答でお願いしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○5番（藤井 要君） それでは、牛原山の整備計画についてでございますが、先ほど町長の方の答弁では、趣旨的なものは職員、町民等々と一緒になって相談してやっていくというようなことになっておりますけれども、私が一番心配したのは、今までどおりの丸投げじゃないかというようなことを心配していたわけですが、一応内部では検討しているということですが、だいたいの主な総体的なものをこのANA総合研究所とか、スタジオエルですか、そういうところにやってということで、お互いに町のヒアリング、職員とのヒアリングとかはやっていないですか。

○企画観光課長（山本 公君） 牛原山の整備につきましては、施設整備で終わってしまうのではなく、あとの運営も全て町民の皆さんに関わりながらやっている、作っていったようなところがございまして、当然ヒアリングも実施いたしておりますし、将来地域の皆さんが引っ張っていけるというんですかね。想像力や力を引き出す職員の養成というんですかね。職員の研修も今年度、27年度実施することになっています。

今回の補正も措置してございます。お願いしてございますけれども、その中で、町民の皆さんとのワークショップも通じまして、その中でやはり町民の皆さんにも関わっていただいた中で、森づくりを進めていくということで考えておりますので、いま職員の研修を併せて、次年度以降に住民の皆さんとワークショップを実施することになります。

○町長（齋藤文彦君） 牛原山町民の森については、私は非常に思い出がありまして、牛原山というのは幻の砦があった沢谷城、そして相生堂を思い出すわけですが、私の考えとしては、何年かのうちにぜひこれを再現したいなという考えがあるわけです。

また、桑畑で牛原山は囲まれていたということで、絹の道、峠の小道等もあるわけですが、こういうのをUWS構想ではないけれども、牛原山からまちづくりを考えるというようにことでぜひやっていきたいなというのがずっとありました。

また、いま防災のことで命山を作りたいなと思うわけですが、なかなか作れないわけですが、牛原山の中腹を町民の切り開いた公園にして、それを命山の代わりにするということも私はいいのではないかなとずっと考えていて、こういうのを実現させるのは・・・、スタジオエルというのは、海士町を再生した非常に力のあるところございまして、スタジオエルというのは、コミュニティデザイン、地域コミュニティの理解、当事者意識の造成、組織化、初期活動のサポートの4つの段階で進めるこれまでにない手作りで地域住民の参加を促して、管理運営を行うパークマネジメントというのが非常に優れているということでいろいろな地域の活性化に役立っていますので、ぜひこの機会に牛原山を中心にまちづくりを考えていければいいのかなと考えているのが今の考えでございます。

○5番（藤井 要君） このあいだ私は鮎川を公園化したらどうかということを行ったわけですが、そうしたところが、町長は壮大な計画があるということをおっしゃっていましたが、いま人口問題を考えたりした場合、牛原山は確かに自然があつて松崎町を見下ろす絶好のロケーションがあると思いますけれども、道が狭い、そして登ってもそんなにいろいろな施設ができるはずではないと私は思っているんですよ。

そうした場合に、やっぱりたくさんのお子様とか、そういう人が集まって遊ぶ場、この前お花畑を鮎川に移転したらどうか、そこで公園化したらどうだろうかなんて私は質問したわけですが、これは牛原山とそれから鮎川とは総合計画の中でリンクしたそういうお考えがあるんですか。それとも、もう牛原山は牛原山で公園化、そして、鮎川は鮎川と別物だよと、連動したものではないということなんでしょうか、町長。

○町長（齋藤文彦君） 私は、牛原山を考えながらまちづくりをしていくということで、鮎川の方もそれなりに考えていくことになると思います。ただ、鮎川に関しては、まだそれぞれ地主の皆さんとの話し合いがなかなか進まないの、話し合いがうまくいったら、そのような中で考えていきたいなと思っています。

牛原山を町民の皆さんが高いとか何とかいわないで、私はトロッコ電車を作って登れるようにすればいいなと考えているところです。町民の皆さんが1日に1回くらいは牛原山に登って運動をすとか、楽しむとか、そういうような形になればいいのかなとずっと考えて

いるところでございます。

○5番（藤井 要君） いま町長は、トロッコ電車とか、それは実現性は別としても、町民があそこに行くのにはなかなか時間的に難しいと、そして先ほど言いましたけれども、人口減少の中でまちづくりをしていかなければならない。東伊豆も2040年ですか、8600人くらいのまちづくりを提案しましたよね、今からやろうと・・・町長はあくまでも7000人のまちづくり・・・、この前私は5000人のまちづくりをしっかりとて、もうこれ以上人口減少をおこさせないんだというようなことを言いましたけれども。そういう中で、やっぱり先を見越した考えをやっていかなければだめだと。ですから、私は鮎川と牛原山がリンクしてやるのかなと・・・、ここにANA総研とかいろいろあります。海士町とかいっぱいこれはやっていますよね、これはANAですけどもね。そういう中で、やっぱり松崎の職員が、じゃあ、牛原山を・・・、こういうことをやりたい。松崎の町民にこういうことを使ってやりたい。でも、松崎の例えば、配置わからないよねとか、一番いい配置をするには、どういう施設を作るとか、そういうのは業者にお任せすると、そういうようなことを私は職員の中に大いに期待し、もしあれでしたら、職員の若手を集めてプロジェクトチームでも作って、そういう議論を活発にやってもらいたいなと考えているんですけども。先ほどから町民を集めて、また職員も集めてやるというようなことですけども、具体的にもう少し・・・、課長、どのようなことでやるのか、お願いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 牛原山は歩きにくいからとかなんとかといろいろあると思うんですけど、これは町民と町が一緒になって牛原山、まちづくりをどうしようかと考えていくわけですから。町民の方からこうした方がいいんじゃないの、ああした方がいいんじゃないの。それだったら鮎川も一緒にこうしたらどうでしょうとか、いろいろなことが出てくると思います。これは1～2年じゃなくて、5年10年を考えた松崎町の本当の基礎ということになると思いますので、ゆっくりやっていきたいなと思っています。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほどもご説明をさせていただきましたけれども、いま職員の研修を、若手職員を入れて研修をしております。今後地域の皆さんとワークショップというか、一緒に森づくりを考えていくというようなこともありますので、その中で職員が地域の皆さんの想像力や力を引き出す、そういう技術をいま学んでおりますので、今後一緒に森づくりを進めていくことになると思います。

○5番（藤井 要君） 先ほどANA総合研究所はいろいろの地域の関わりがあつていっぱい

やっていますけれども、海士町とか四万十とかもやっていますし、このスタジオエルあたりも去年あたり松崎に来て写真かなんかを撮ったと・・・、これは違うんですかね。写真を撮ったのはANA総研ですか。梅月あたりのところに来て、ANA総合研究所が移住者の促進を目標になんてことで、松崎町より事業を委託されていますとか、そのようなことが載っていますけれども、去年これは来て時限的にもう何かをやって・・・、ということで去年どんなことを・・・、ANA総研の場合は、写真家の秋野先生による地域の魅力発見セミナーなんてことをやっていますけれども、どのようなことをやったんですか。

○企画観光課長（山本 公君） 牛原山とANA総研というのは関係がないものですから。移住・定住の関係で昨年地域活性化センターの補助もいただきながら、その中で美しい村に加盟しております企業会員でありますANA総研さんの力をお借りしたということで、その中で写真家の方を呼んで勉強会をして、移住・定住に向けたリーフレット、パンフレット、移住・定住にあたってのパンフレットを作ったりとか、東京に行きまして、松崎マルシェみたいな形の中で松崎の産品を紹介したり、そういうものを実施したということでございます。

○5番（藤井 要君） これをあまり議論をやってもしょうがないと思いますけれども、町長、このあいだ町長は壮大な計画と言いましたよね。それで、先ほど私はリンクしているのか、連動しているのかと言いましたが、この前なんか鮎川は伊豆縦貫道のトンネルの土砂を埋めて、あそこを畑か何かにして区画整備してなんていう話もしていましたけれども、そうすると、これは公園化とか、全然私の構想とまた町長のものとちょっと違うんじゃないですか。

そして、区画整備というか、あそこの地籍はごちゃごちゃになっていて、江戸時代のままみたいな関係だということで、整備したいということは土砂を埋めなくてもできることじゃないですか。どうですか、町長。

○町長（齋藤文彦君） 鮎川の方はまだまだこれから時間がかかると思いますので、これからゆっくり考えたいなと思うわけですが、先ほど申しましたように、牛原山というのは、牛原山からまちづくりを考える、まちづくりから牛原山を考えるということで、皆さん方と話し合っ、本当に松崎町の役場に入って来たら、ジオラマじゃないけれども、松崎町はこういうまちづくりを進めているんだというような形にしたいなと、非常に時間はかかると思いますけれども、一生懸命やっていきたいなと思っています。

鮎川の件はまだまだなかなかこれからいろいろな問題があると思いますので、そう簡単に

は進まないと思いますので、そのような形で進めていきたいと思っているところでございます。

○5番（藤井 要君） なかなか一長一短、時間的にもかかるでしょうから、一生懸命やってもらいたい。また、先ほど町民の意見をと言いますけれども、これはやっぱり松崎である程度たたき台を作ってやらないと、そして、町民におろしていく。そして、意見を聞かないと、町民の意見をということでやるとなかなか百人十色でいろいろな意見が出てくると思うから、たたき台を出せるような、そういう考えで、このスタジオエルとかそういうところにもしっかりとやってもらいたいなど。時間的にも早急に、スピード感を出してやってもらいたいと思います。

次に、美しい村の関係ですけれども。これは、常盤橋、浜丁橋、町長は今年度ですか、やるということですので、よかったなと私は思いますけれども、どうするのかちょっと話の中で、やるやらないの前に、もうやるということになりましたので、この議論は入らなくてもいいと思うんですけれども。例えば次のお客さんが来るときに、私も那賀川沿いを一生懸命葎を刈って美しい村にしたいと思って頑張っているわけですが、いろいろな方に手伝ってもらって、やろうじゃ委員会をはじめやっているわけですが。じゃあこれと一緒に葎の方も、川をきれいにするなんていう、そういう構想はないですか。もうちょっと頑張ろうじゃとか・・・、町長、ないですか。

町長は県に・・・、川勝さんともお友だちのようですので、平ちゃん、文ちゃんの関係でもっとスピード感を持って、葎刈りだとか、土砂をきれいにするなんてことはできないですか。

○町長（齋藤文彦君） 藤井議員が草刈りとかなんとかやっているのは非常にありがたいなと思っているところがあります。

やっぱり美しい村の実現には町内の美化が必要だと思っていますので、やっぱり自分たちの住む町は自分たちで守り育てること、このようなことを町民の方が思っているようになればいいなと私はずっと考えるところです。

そこで、松崎町のいろいろな掃除をやっている方をみてみますと、松崎ポートクラブの皆さんが松崎港の緑地とかをきれいに掃除していて、浜掃除なんかもして、流木なんかを燃やしてくれて非常に感謝しています。

また、アダプト・ロードの関係で中村老人会の皆さん方が一般県道南伊豆松崎線、小泉商

店から松尾橋までをやってくれています。また、町の観光協会が一般国道136号の岩地駐車場付近をやってくれて、リバーフレンドシップでやろうじゃ協議会が那賀川伏倉橋の関係をやってくれて非常に感謝しているわけですが、船田区の皆さんが船田川上流起点から船田橋まで100メートルくらいやっていると。そして、大沢区の皆さんが那賀川の露天風呂バス停から滝見橋付近をやってくれています。

町としてもそれぞれの課が環境モデル保全地区というのが18地区あって、各課が担当してやっているわけですが、これは役場だけではできませんので、地域の皆さん方と一緒にやりたいなと思って、いろいろ私は町長だよりの方で書いているわけですが、これをぜひやっていきたいなと思っています。

また、町内の皆さん方には、年3回の町内一斉清掃をやっていただいて、本当に感謝しているところでございます。また、県からも・・・、一般国道、主要地方道、一般県道等を県がやっているわけですが、県が本当に予算が少なく、なかなかできないので、町の人ができるというような形になっているわけですが、本当にやっぱり伊豆半島は一つの公園であると川端康成さんも言っていますけれども、松崎を一つの公園にするような形に私は最終的にはもっていききたいなと思っていますので。これは役場だけではできませんので、皆さん方の協力を得て、美しい村に入った機会に松崎町を本当に美しい村にしたいなと思っています。

○5番（藤井 要君） いま町長が、松崎町は全体が美しい公園だと、私もそうなればいいなと思います。

町長、もしあれでしたらね、区長会等がありますよね。そういうときに、例えば花の日とかもありますよね。1時間でもどんかいでもいいから、川を区切って、ここはこの区で刈ってくれないとか、そういうような発信をして、タダでというわけにはいかないですけど、それなりにジュースを出したりとか、いろいろやってやる。そのようなこともいいんじゃないかと私は思いますけれども、町長、そういう発信は、区長会なんかでは発言できないですか。

○町長（齋藤文彦君） 区長会等では、環境保全地区にいろいろ協力していただきませんかというようなことは区長会で言っています。

だから、本当に区長さんが本当にその気になって、その地区が協力してくれるような形になれば、もっとよくなるのかなと思っていますところでございます。

○5番（藤井 要君） 冒頭の中で、なまこ壁の関係を言いましたけれども、なまこ壁はほかの議員もちょっと聞くということがあるので、私はここで美しい村の常盤橋と浜丁橋の関係等は終わりました。台湾、ベトナムの関係、外国人、これはおもてなしというのものもあるわけですが、先ほど道の駅が、もうちょっと充実させろということによっておられますけれども、あと、どのように今の三聖苑のところ、道の駅をもう少し充実させようという内容がわかりましたら、お願いしたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほどの町長の答弁の中にもありました伊豆半島の中にある8つの道の駅、まだ函南は整備ができていませんけれども、これを入れて国交省の方の重点道の駅ということで、指定がされています。その中でやっていくことは、インバウンド対策を進めること、あるいは積極的に情報発信をしていくということというのがございますので、それらの中で、インバウンド対応あるいは情報発信の仕方をやっていくと・・・。

三聖苑につきましては、三聖苑の未来を考える会という組織もありますので、その中でいろいろ議論がされていくと思いますので、それらのご意見を賜りながら整備を進めるということになると思います。

○5番（藤井 要君） じゃあ、まだこれは、道の駅・・・、いま未来を考える会とかいろいろあるということですが、まだ本格的に稼働というか、動いてないんですか。

○企画観光課長（山本 公君） 重点道の駅の関係については、もう会議を進めています。個別の松崎町三聖苑の関係の会議については、1回開催しておりますけれども、今後また開催してご意見を賜っていくような形になります。

○5番（藤井 要君） それでは、町長は台湾、ベトナムに行って来たわけですが、職員に対してどのような指示を与えて、課長はどのような企画を作っているのか、さわりがありましたら、お願いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 私は、東南アジアへ視察に行ったわけですが、本当に東南アジアは活気にあふれていて元気だなと痛切に感じたわけです。

日本が昭和40年代から60年代にかけて高度経済成長という滑走路に乗かって、後進国から先進国に飛び立ってあのときの姿を想像するわけですが、それで自分たちがハワイとかアメリカとかに行ったように、東南アジアの人たちが日本に来るわけですが、やっぱり東南アジアから日本に来た人たちは、伊豆半島に来た人たちは、成立した町がどういうふうな東南アジアの人たちに伝えるかということを非常に考えるわけです。

私は、東南アジアへ行って、グリーンツーリズムとか、エコツーリズムとか、フラワーツーリズムという話を聞くわけですが、東南アジアの人たちでも各民宿とか、岩地なんかに個人で家族で来るようになっているので、松崎町がやっています農林漁業を土台とした全町まるごとふる里自然体験学校、体験を通して対価を得る、教師は町民である、それで滞在型・体験型のまちづくりを進めているわけですが、私は東南アジアに行くたびに、私たちは松崎町のまちづくりは非常に進み方は少ないけれども、間違っていないなというようなことを痛感するわけです。

また、行って非常に感じるわけですが、静岡空港に着いても成田に着いても羽田に着いても、それからもう一つの旅が始まるわけです。本当に伊豆縦貫道を中心とした道路網の整備をしなければいかんということを痛切に感じます。美しい伊豆創造センターという実行部隊ができましたので、その組織を皆さんと協力してちゃんと道路網を整備しなければいかん・・・。それで先ほど課長が言いましたけれども、道の節々にある道の駅をちゃんと、外国の方が来てもWi-Fiで全部情報が入るような形にしなければいかんということを痛切に感じているわけで、こういうことを職員の方に話しているということでございます。

○企画観光課長（山本 公君） 外国人、インバウンド対応の関係につきましては、パンフレットの整備、これは観光協会の方で台湾、中国、韓国あるいは英語版のものを作ったり、おもてなしの講座を開いたりとか、そういう形の中で過去進めておりますけれども。重点道の駅の関係の中でも研修ということもございまして、それらの研修を受けて職員がスキル、レベルを上げてお客様を迎えるような態勢にしていきたいと思いますし、また、観光協会の方とも連携をした中で受け入れ態勢を図っていきたくて考えております。

○5番（藤井 要君） 答弁を聞いていますと、だいたい作るのが多いですね。「検討していきたいと思います」「今から考える」もっと、先さき・・・、自分たちはこういうふうにしたいんだということを前面に押し出していかなければ、なかなかこれは進んでいかないと思うんですね。

先ほどの外国の韓国版、台湾版とかいろいろなパンフレット、あれは何年も前からありますよね。そして、最近でも外国人、中国人が一番多いわけですが、伊豆新聞あたりもそうですけれども、熱海だとか、伊東だとか、そういうところに外国人がどんかい泊まったなんていうのを見ますけれども、松崎は1人もいないというか、いるかもしれませんけれど

も、数字に残らないような状態。そのような状態の中ですからね。しっかりともう少し目に見えるように、「ああ、役場はこんなにやっているんだ」ということをしっかりとやってもらいたいと思います。

そういう中で、町民を巻き込んでということで、本当にスピード感をもって、町長、これからもやってもらいたい。そう思います。

次の問題に入りますけれども、農林業の関係、くらしと環境ですけれども、イノシシ、獣害の関係ですけれども、このあいだインターネットを見ていましたら、石川県と福井県ですか、これもイノシシとかシカの問題で困っているということで、どちらの県かわかりませんが、長さ28キロの柵を設けて入らせないように・・・、費用が5880万円くらいをかけたというようなことも載っておりました。

そして、最近では5月ですか、法改正がありましたよね。夜間でも鉄砲で撃てるようになったとか、捕まえたものを麻酔銃で撃つことができるようになったとか、そういう・・・、5月に法改正があったわけですがけれども、うちの方はやっぱり猟友会の方々は年寄りになってきて、なかなか・・・、そして法的な関係もあるんですがけれども、その点はうちの方で対応できるとか、そういうような考えはもう作ってありますか、町長。

○町長（齋藤文彦君） この鳥獣の被害については非常に難しいわけで、これはシカに関するわけですがけれども伊豆地域で適正な生息数は800頭から1600頭。それに対して2万1000頭が生息しているということで、静岡県も管理捕獲で1万頭まで削減しようということで9000頭を目標にして7000頭を獲ったというようなことがあるわけですがけれども、最終的には本当にこの捕獲と・・・、生息数の削減と捕獲しかないなと考えているところです。

それで、やっぱり山をちゃんと整備することと、生息数の削減と捕獲しかないのかなと思っています。

それで、これを捕獲するのは狩猟免許を所持する皆さんですので、猟友会の皆さんにそれなりの手厚い保護をしているわけですがけれども、これを進めて県の方に生息数の削減をもうちょっとはつきりしてもらって、県と市町が力を合わせていくしか手はないなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。藤井君、時間を延長しますか。

○5番（藤井 要君） 延長をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長を許可します。

○5番（藤井 要君） これは課長の方が詳しいと思いますけれども、課長、今度5月の法改正は内容的に少し取り入れられるようなやつがありますか。夜間撃つとか、麻酔銃の関係、わなの免許の取得期間とか、いろいろありますよね。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 夜間捕獲とか、様々な法改正があると思いますが、それについて内容確認した上で、松崎町としてできるものについて対応していきたいと考えております。

いずれにしても、有害鳥獣に関しましては、適正な数に管理しなければいけないということで、県と共同しながら対策を講じていかなければならない課題だと思いますが、ただ、町長の答弁にもありましたけれども、特効薬はございませんので、様々な施策、情報を通じまして進めていきたいと考えております。

○5番（藤井 要君） なかなか特効薬はないんですけれども、先ほど言った石川県とか福井県の関係、町長、壮大な計画ということで・・・、町長はこの前壮大な計画使っていますので、松崎町を万里の長城まで網で囲うというような・・・、町長、そんな考えはないですか。松崎をくると囲っても、それは囲うだけでやっぱり国県も半分にしようということを言っていますよね、頭数。どういうこと・・・、内容的にはどういう格好でやるのか、なかなか先ほど言った夜撃ってもいいよとか、そういうのがもうできてきているわけですから、いままだ町の方もそういう計画案については何も考えてないよというようなことから、町長、壮大な計画・・・、そのようなものは、考えはどうですか。

○町長（齋藤文彦君） そのような考えはないわけですが、賀茂の猟友会の皆さん方をみると53名いるわけで、これは27年度ですが、やっぱり非常に高齢化してしていますということで、いろいろ話を聞くけれど。やっぱり歩くのが面倒くさいから車で行くところまで行って、そこだけはやるけれども、中に入っていくのは非常に面倒くさいというようなことを言っていますので、やっぱり削減するには、どこの市町も悩んでいると思うんですが、猟友会の皆さんに頑張ってもらえないかなというところでございます。

○5番（藤井 要君） これは猟友会の方々のお話もしましたが、やっぱり管理だけじゃだめだということで、自分たちというか・・・、池代もそうですけれども、門野とか小杉原、もしあれだったら、天城に昔あれがありましたよね。囲いの中に入れて、そして、入れてから閉めて処理すると、そういう方法も「おれたちもやりたいな」というようなことを言っているんですよ。

町長、先ほど私も言いましたけれども、このままのただ囲いで管理して入らせないというのになりますと、この前の吉田区みたいに「もうおれたちはやだよ」と「こんなことをやっているのはやだ」ということになると、町長が言っている観光の中心に農林業がなくなるわけですよ。ですから、やっぱり町長、壮大な計画、考えてやってくださいよ。もちろんお金の関係もありますけれども、お金っていっても・・・、さるが2万円でしたっけか。3万円でしたっけか。

(町長「2万円です」と呼ぶ)

○5番(藤井 要君) イノシシが7000円とか、いろいろあるわけですがけれども、お金のことばかりじゃなく、そういう囲いの中に入れて処理するとか、そして、仕掛けのわなも3か月ごとに移動しなければならないとか、そういうのもあるみたいですので、そこもしっかりと検討してやってもらいたいと思います。

最後、時間があと2分くらいになりましたのであれですがけれども、プレミアム商品券、町長は問題があったことをこの次のときにはまたそれを教訓にして考えていきたいということでしたけれども、いつこの次になるかわかりません。西伊豆町の名前を出しますと、やっぱり事前に予約電話を取ったりとか、そして、たくさん多くの予約がいれば20万円から今回10万円にしたんでしょうけれども、10万円にしたりとか、やっぱりそういうことも考えているんですよ。販売箇所も1カ所にしてちゃんと例えば1軒の家が2つもやらない、取れないというようなこともいろいろ考えていると、テレビ報道を見ても、どこかの信用金庫、東京の方ですか、職員が先に取っちゃったよとか、いろいろそういう問題があるわけですよ。松崎は善良な市民ばかりですから、そういうことはないと思いますけれども、やっぱりほかのところ、町外の人たちのおかげで私たちは買えなかったということも耳にしているわけですから、そのところはしっかりと、町長、やってもらいたい。今後の課題ということで、その辺をお聞きして終わりたいと思いますけれども、お願いします。

○町長(齋藤文彦君) 商工会も昔プレミアム商品券事業ということでやったわけですがけれども、そのとき非常に売れ残りがあったと。それで、今度のやつは4000セットということで、これが本当に売れるのかなと非常に心配していた商工会もあったことでございます。

それで、今度のあれは取扱事業所が町内全事業物販サービスを対象としたものですから、イオンとかいろいろ松崎の全商店とかなんとかできたわけですから、非常に人気があったということで、いろいろ・・・全部に行き渡らなかったということで、商工会も非常に反省し

まして、そのような反省を踏まえて今後やりたいなとっていました。

また、健康福祉課を伝って子育て世代や高齢者世帯への配慮も検討だと言っていたので、これからやるときは、そのようなことを考えてやっていきたいなと思っています。

○5番（藤井 要君） これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前10時41分）
